



## 保護者も地域も教職員も

### 一生懸命に子どもを支援する学校

校長 山口 浩史

人と自然が調和する矢部村に、昨年4月に矢部小学校と矢部中学校が統合し、福岡県で3番目、八女市で2番目の義務教育学校として矢部清流学園が開校して今年度で2年目を迎えます。「ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる児童生徒の育成～学校地域家庭をつなぐ『総がかりの教育』の推進～」という学校教育目標は、保護者や矢部村住民が新しい学校やそこで学ぶ子どもたちの成長に期待する強い願いが込められています。

本年度の全校児童生徒数は1年生～9年生まで合計54名と少ないものの矢部清流学園では、児童生徒数が少ないことを強みに、学力向上に取り組んでいます。少人数での授業なので一人一人の子どもが主体的に学習しています。一人一人の発言機会がとて多く、様々な意見交流ができる対話的な授業が進められています。主体的で対話的な深い学びの授業が全ての教科で毎日行われているため、必然的に子どもたちの学力は向上していきます。

また、昨年度から新たに始めた1年生～9年生までの英会話教室は、英語が堪能な地域人材を活用して、英語科の教科授業以外でも英語に触れる機会を多く準備し、日常的に英語で会話できる子どもたちの育成を目指しています。外国語指導助手が週3～4日来校し、ネイティブな英語にふれられることも強みです。

また、後期課程(7年生～9年生)の子どもたちは、教科型教室で学習します。理科室や音楽室だけでなく国語も数学も社会も、全ての教科で移動教室を行いますが、各教科の教室には、7年生～9年生までの教科学習の足跡が掲示されており、また、全ての教室に電子黒板が準備され、ICT環境が充実しています。

しかし、学力だけを向上させているのではありません。昼休みには、グラウンドや木籠(体育館)で1年生～9年生まで学年や男女関係なく元気に遊びを楽しむ姿や、清流会(児童生徒会)の役員やリーダーの真剣な話し合いの姿が見られます。このように、子どもたちによる自治的な活動も推進しています。

矢部村には、地域の伝統芸能として福岡県指定民族無形文化財である八女津媛神社の浮立があります。本校では、伝統芸能存続のために地域の保存会と共に浮立の伝承・保存の活動を行い、毎年矢部まつりで披露しています。このほかにも公卿唄の伝承活動や「柚のふるさと文化館」の清掃活動など地域と共にある活動を大切にしています。本校の全ての子どもたちが、地域の皆様方に宝物として大切にされており、矢部地区総がかりで支えていただいている幸せな学校です。

今年度の矢部清流学園PTAのスローガンは、「一生懸命！！～子ども達のために 子ども達とともに～」重点目標は、「矢部の地域を誇れる子どもを育てよう」「子ども達とともに、親も学んで成長しよう。」です。椎茸栽培やよもぎ饅頭づくり体験の支援など、地域学校協働本部との連携もたいへん充実しており、保護者も地域も教職員も一生懸命に子どもを支援している素敵な学校です。